

「新IT経営の最新知識」Ver3.0に対する正誤表

2017年6月17日現在

ページ 行	誤	正	備考
P16 3行目の次行に追加	3行目の「 <u>専門知</u> 」とは、IT経営プロセスの実践経験のもとに出来る実践能力をいう。の次行に追加。	例えば、IT経営の知識に導入経験が加味されると専門知になる。	
P16 5行目の次行に追加	4-5行目の「 <u>行動知</u> 」とは、……能力である。」の次行に追加。	例えば、流通業界で活用した専門知を別の小売業業界で適用できるのであれば行動知を有していることになる。	
P16 8行目の次行に追加	6-7行目の「 <u>意識知</u> 」とは、……が求められる。」の次行に追加。	例えば、IT経営改革プロジェクトで経営者の共感を得て意識を変えることが出来れば意識知を有していることになる。	
P16 9行目の次行に追加	8-9行目の「 <u>実践知</u> 」は、……が強化される。」の次行に追加。	つまり、スキる(知識)とキャリア(実践)によって実践知は構成される。	
P17 下から2行目	向けて更なる変革の表明を行う「 <u>持続的成長プロセス(A3)</u> 」からなる。	向けて更なる変革の表明を行う「 <u>持続的成長認識プロセス(A3)</u> 」からなる。	
P20 下から6行目	ト完遂を目指した <u>モニタリングコントロール</u> を行う。	ト完遂を目指した <u>モニタリング & コントロール</u> を行う。	
P24 10行目	<u>すもの</u> 」ことをいい、イノベーションとは、…	<u>すもの</u> 」のことをいい、イノベーションとは、	
P29 下から6行目	<u>一般</u> 、リスクは利益および損失……	<u>一般に</u> 、リスクは利益および損失……	
P37 6-7行目	企業が経営環境変化の中で生き残り、環境の変化と企業の位置を理解し、将来を洞察し具体的な <u>変革の構想</u> にまとめ上げねばならない。	企業が経営環境変化の中で生き残るためには、環境の変化と企業の位置を理解し、将来を洞察し具体的な <u>変革</u> を構想としてまとめ上げねばならない。	

「新IT経営の最新知識」Ver3.0に対する正誤表

2017年6月17日現在

ページ 行	誤	正	備考
P37下から5行目	経営者の意識改革と従業員の参画意識の醸成による共創の場づくりを行う。	経営者の意識改革と従業員の参画意識の醸成によりコミュニケーションの活性化を図り共創のできる場づくりを行う。	
P39 5行目	(3)変革へ向けての課題・解決策の可視化	(3)変革に向けての課題・解決策の可視化	
P39 8行目	ブレインストーミング等を活用し、収集された気づき情報 <u>殻</u> 課題抽出を行う。	ブレインストーミング等を活用し、収集された気づき情報から課題抽出を行う。	
P43 下から8行目	継続的は変革の体制作り	継続的な変革の体制作り	
P47 5行目	1. 持続的成長プロセス(A3)の概要	1. 持続的成長認識プロセス(A3)の概要	
P47 13-14行目	…「(2)新たな変革の <u>か</u> の制の認識」…	…「(2)新たな変革の可能性の認識」…	
P48 13行目	①新たな変革 <u>枠組み</u> の洞察	①新たな変革の <u>仕組み</u> の洞察	
P49 6行目	持続的成長プロセス……	持続的成長認識プロセス……	
P52 9行目	を作成する <u>う</u> 。……	を作成する。……	
P52 下から 8-9行目	プロセスの流れができる。プロジェクトを伴わない「経営戦略」……	プロセスが出来上がる。1つはプロジェクトを伴わず既存のプロセスで実施する「経営戦略」……	

「新IT経営の最新知識」Ver3.0に対する正誤表

2017年6月17日現在

ページ 行	誤	正	備考
P53 8行目	・・・業務改善・改革を <u>実行</u> が加わる場合の流れである。	・・・業務改善・改革を <u>実行が</u> する流れである。	
P54 下から8行目	して報告することになる。	して経営戦略プロセスへ報告することになる。	
P65 5行目	直しに繋げ、経営戦略プロセス完了時に当報告書は持続的成長認識プロセスへ引き継ぐ。	直しに繋げる。 ②経営戦略の評価結果を「持続的成長認識プロセス」へ引き継ぐ 経営戦略プロセス完了時に当報告書は持続的成長認識プロセスへ引き継ぐ。	
P66 7-8行目	・・・内部経営資源の最適配分、その配分の柔軟な見直しと外部経営資源の積極活用を行う。	・・・内部経営資源としての「ヒト」、「モノ」、「カネ」の最適配分、その配分の柔軟な見直しと外部経営資源としてのスキル人材などの積極活用を行う。	
P68 4行目	①CSF、業務改革課題、改革スケジュールを <u>作成</u> する。	①CSF、業務改革課題、改革スケジュールを <u>作成</u>	
P84 下から4行目の次行に追加	務安定性などを評価して「外部のサービス開発・提供者リスト」を作成する。の次行に追加。	③RFP7の発行 ・ステアリングコミッティの承認を得て発行する。 ・秘密保持契約書(NDA)を交わす。 ・説明会を開催し、質問や依頼に対応する。 ・説明内容や提供情報はすべて平等に開示する	
P117 6行目	①IT経営認識領域の評価対象	◆IT経営認識領域の評価対象	
P118 6行目	②IT経営実現領域の評価対象	◆IT経営実現領域の評価対象	

「新IT経営の最新知識」Ver3.0に対する正誤表

2017年6月17日現在

ページ 行	誤	正	備考
P53 8行目	・・・業務改善・改革を <u>実行</u> が加わる場合の流れである。	・・・業務改善・改革を <u>実行が</u> する流れである。	
P54 下から8行目	して報告することになる。	して経営戦略プロセスへ報告することになる。	
P65 5行目	直しに繋げ、経営戦略プロセス完了時に当報告書は持続的成長認識プロセスへ引き継ぐ。	直しに繋げる。 ②経営戦略の評価結果を「持続的成長認識プロセス」へ引き継ぐ 経営戦略プロセス完了時に当報告書は持続的成長認識プロセスへ引き継ぐ。	
P66 7-8行目	・・・内部経営資源の最適配分、その配分の柔軟な見直しと外部経営資源の積極活用を行う。	・・・内部経営資源としての「ヒト」、「モノ」、「カネ」の最適配分、その配分の柔軟な見直しと外部経営資源としてのスキル人材などの積極活用を行う。	
P68 4行目	①CSF、業務改革課題、改革スケジュールを <u>作成</u> する。	①CSF、業務改革課題、改革スケジュールを <u>作成</u>	
P84 下から4行目の次行に追加	務安定性などを評価して「外部のサービス開発・提供者リスト」を作成する。の次行に追加。	③RFP7の発行 ・ステアリングコミッティの承認を得て発行する。 ・秘密保持契約書(NDA)を交わす。 ・説明会を開催し、質問や依頼に対応する。 ・説明内容や提供情報はすべて平等に開示する	
P117 6行目	①IT経営認識領域の評価対象	◆IT経営認識領域の評価対象	
P118 6行目	②IT経営実現領域の評価対象	◆IT経営実現領域の評価対象	

「新IT経営の最新知識」Ver3.0に対する正誤表

2017年6月17日現在

ページ 行	誤	正	備考
201ページ	<p>図表IV-1-28</p>	<p>①内部業務プロセスの視点の戦略目標のKPI 「引合件数成約率」を「引合要求合致率」に変更</p> <p>②戦略目標のKPI「案件原価遵守率」から上方の線を消去する。</p>	